



TRY SHOWA

甲府昭和高校通信

URL <http://www.syowah.kai.ed.jp/>

山梨県立甲府昭和高校

令和元年9月1日

第 52 号 発行

電話 055-275-6177

FAX 055-275-2594

第36回 紫映祭 The GREATEST SHOWA ～みんな違うから輝くんだ～

令和元年 6月27日(木)・28日(金)・29日(土)

第36回紫映祭には、2300名の多くの皆さんにご来校いただき、本当にありがとうございました。

六つの団の団長を中心に、全校生徒一丸となる感動の学園祭を作り上げることが出来ました。【写真部生徒撮影】

1日目 運動会 (昭和町総合体育館・押原公園)



リレー



応援合戦



エキサイティングウエーブ



長縄跳び



2日目 開祭式・合唱コンクール・文化部発表 (YCC文化ホール)



団長パフォーマンス



合唱コンクール



ダンス部発表



箏曲部発表

3日目 公開日・閉祭式 (本校)



クラス企画(3年)



正門アーチ



窓絵(2年)



美術部



書道パフォーマンス



中庭出店



解団式



茶道部



● 生徒会長
久島 健太
(3年 田富中)

私は生徒会長として、常に全校生徒の先頭に立ち、自ら考えて行動するという「主体性」を意識し、学園祭を運営しました。企画段階から意見を出し合い、議論し、その中から最善案を見つけ出しました。全校生徒は、各部門に分かれて、時にはぶつかり合いながら、学園祭の成功という最終目標に向かって努力しました。この紫映祭を通して身に付けた「協調性」「コミュニケーション能力」「思考力」「主体性」といった「力」を、これから私が歩む道の中で活用して行きたいと思います。

紫映祭で身に付けた「力」

～将来の社会生活に活かすために～

● 紫映祭実行委員長
五味 功大
(3年 甲府北西中)



今年の学園祭は、最高学年としてリードする立場で取り組みました。企画を考える所から開祭まで、生徒が主体となって行動することで「主体的な力」を身に付けることが出来ました。合唱や似顔絵やクラス新聞などすべての部門で縦割りの後輩たちに上級生たちが指導をすることで、縦割りの団の一体感を強く感じる事が出来ました。そして「協働性」や「コミュニケーション能力」も養うことが出来ました。身に付けたこれらの「力」を生かし、「今何をすべきか」ということを常に考えながら、自信を持って行動していきたいと思っています。

「資質・能力を高める探究的な学習」実践発表会

7月19日の「総合学習の時間」に3学年の生徒全員が探究的な学習の一環として、ポスターセッションを実施しました。各自の進路希望の分野に関連する諸課題をテーマにして、班ごとに分かれてポスターセッション形式で発表をし、様々な資質能力を生徒たちは身に付けました。この発表会に参加した3人の生徒に、この探究活動発表会でどのような力を身に付けたのかということを行いました。



●長葭夏海さん(童王中) (写真中央)

- ①発表テーマ…異文化・自分が二分化。世界は気分屋～世界は195個の性格～
- ②工夫した点…「異文化」について理解してもらうために、どのようなバスターのレイアウトが良いかとても悩みましたが、聴衆者が聞きたいと思えるような発表になるように工夫しました。
- ③身に付けた力…人前で発表する表現力の力が身に付いた。また、突然の質問にも対応できるような判断力も身に付きました。
- ④将来の活用…「調べる→まとめる→発表する」というプレゼンのサイクルが身に付いたので、社会に出てからも活用して行きたい。将来多くの人と関わる中で、活発なコミュニケーションをしていきたいと思います。



● 溝口由人くん (甲府西中) (写真中央)

- ①発表テーマ…Give & Takeの未来
- ②工夫した点…色々な人にインタビューをして、緊張して大変であったが、コミュニケーションの度胸が付いた。発表者と聴衆者が一体化するような発表になったと思います。
- ③身に付けた力…段階を踏んで論理的に物事を説明できるようになった。自分たちが伝えたいことを明確に発表できるようになった。
- ④将来の活用…英作文や数学の証明問題など、記述力を必要とする問題に有効な力が付いたと思います。また大学や会社に行ってからプレゼンに活用できると思います。



●志村恵梨さん（櫛形中）（写真右）

- ①**発表テーマ**…環境とデザインは結びつものか？
- ②**工夫した点**…準備の段階で既に誰かが考えていたりすることが多く、自分たちのオリジナルを如何に出していくかという点を工夫した。
- ③**身に付けた力**…聞く人たちに魅力的な発表になるようにポスターのデザインや、説明の構成や話し方を明確にする表現力を身に付けることができました。
- ④**将来の活用**…私は将来はデザイン関係か商品開発の仕事に就きたいと思っているので、人々に商品を魅力的に見せたり、紹介するという場面に役立てたいと思います。

発表内容（5組6班）「私達に求められる機械とは？」

5組6班

- 穴水 隆翔(八田中)
- 石橋 龍聖(敷島中)
- 石原 大暉(西中)
- 越石 勇貴哉(城南中)
- 佐久間 達海(竜王中)
- 中井 翼(南西中)



- ### ①「課題の設定」
- 工学部の機械科学進学希望の6名が集まり、各自が機械系に関する問題意識を持ち、「地球に優しい機械とは何か」「今、技術者に求められている環境への配慮とは何か」といった話し合いがなされ、最終的に「私達に求められる機械とは何か」(将来私たちがものをつくる時、どのように今あるものを改善していけば良いか?)というテーマに設定しました。

- ## ②「情報の収集」
- 書籍やインターネット使って調べ始めましたが、調べるうちに、新たな課題や気づき等が発見され、ブレインストーミングの手法で、自由に自分たちの発想を発展させていきました。

- ### ③「整理・分析」
- 発表原稿やポスターの模造紙を作成していきま
した。実際に書き始めていくと、事前の情報収集の
段階での考えなどと「ずれ」が生じた場合は、修正し
ていきました。最終的な結論は、「私たちは「時間」
「耐久力」「燃料」「コンパクト」という4観点からより
良い機械づくりをすべきである。」という結論に至
りました。

- #### ④「まとめ・表現」
- 結論が、聴衆者に明確に分かりやすく伝わるように心掛けて発表した。発表後に、聞いた人からいただいた感想用紙をもとに班員同士で自己評価をしました。

発表を聞いての有識者の助言

- シナプテック株式会社 代表取締役CEO 戸田 達昭 氏

SDGs(持続可能な開発目標)でも掲げられているように、これからの社会は多様化し、様々な解決策が求められています。その中で、“何をどのように学んだら良いのか”、ということを考える上で、最も大切なことは、“自分自身がどうな



发表を聴く戸田氏(写真左)

りたいのか”、ということ。そしてその“自分自身がどうなりたいのか”、ということ。自分だけではなく、友人や先生方、そして地域社会や世界と照らしあわせ、協働しながら見出していく上でも、探究活動は極めて重要な役割を担っていると思います。

探究活動で育んだ、課題やその本質を見抜く力、そして解決策を皆で考え調査し、まとめていく力、そしてそれを発信する力。まさに「昭和高校Can-do」の観点であると思いますが、これはこれからの世の中を生き抜いていくために求められている起業家精神(entrepreneurship)の要素であり、あとは実行する力が揃えば、この先の進路でも間違いなく活躍できる人材になれると思います。

多様化する世界の課題に対して、他人ごとではなく、そしてどこかの地域の話ではなく、自分や自分たちの住んでいる地域、山梨と照らし合わせて、探究し、その中で“自分自身がどうなりたいのか”つまり“あなたの夢”を見つけていってください。応援しています！

Profile

戸田 達昭 (とだ たつあき)

静岡県出身
やまなしの翼プロジェクト代表
第6期中央教育審議会生涯学習
分科会委員
山梨県青少年問題協議会委員
Smart Frontier KOFU代表
山梨大学非常勤講師, etc.

